

活力ある職場づくりをめざして

| | | | |
|-------|---------|------|------|
| 下呂宮林署 | 萩原担当区主任 | ○佐々木 | 伸也 |
| | 馬瀬担当区主任 | 木島 | 伸吾 |
| | 宮地 | 〃 | 二村正博 |
| | 焼石 | 〃 | 岩木貢 |
| | 七宗 | 〃 | 松嶋克彰 |

1. はじめに

現在、国有林野事業は改訂・強化された改善計画に基づき、経営改善努力がなされその効果があがっている面もでてきているが、毎年増大傾向にある累積債務は、経営を大きく圧迫し国有林のイメージをも暗いものとしている。

平成2年12月に林政審の最終答申がなされ、国有林野の機能を類型化してこれに対応した管理経営を行うこと、自主的改善努力と資金援助という構造の新たな方向付けがなされ、今、まさに国有林が変わろうとしている。

こうした現状を踏まえ下呂宮林署では、活力ある職場づくりを通じ地域に理解される「元気な国有林」をめざすため、職場の活性化を図り、元気の出せる職場、署員一人ひとりの意欲・資質の向上、さらに職員相互の間の意志疎通を図っており、地域からは「宮林署はよくやっている」と評価・信頼され一層の理解と協力を得るよう、署長以下一丸となって積極的に取り組んできたところ、一定の成果が得られたので報告する。

2. 目的

活力ある職場づくりを通じ地域に理解される「元気な国有林」をめざす。

3. 実施事項

(1) 職場活性化のために

- ア 署のシンボルマークの制定
- イ 「下呂の植物を知ろまい会」運動の展開
- ウ 「ガヤ・ガヤ会議」の随時開催

(2) 地域に理解されるために

- ア インストラクター業務の推進
(森林教室・地方公共団体等が主催する自然教室・森林浴等へのインストラクターの派遣)

- イ 幼児学級委員会の学習会へ講師派遣
- ウ 桜の名所づくりへの参加・指導
- エ 卒業記念行事への協力

4. 取り組み内容と結果

(1) 職場活性化のための実施事項

ア 署のシンボルマークの制定

(写真-1)

イ) 内容

シンボルマーク作りは、元気の出せる職場づくりと地域に国有林の理解と協力を得ることを目的に、イメージ作戦として取り組み、11点の応募作品の中から職員全員の投票でこの作品が選ばれた。シンボルマークはステッカーとシールの2種類を作り、ステッカーはヘルメット・車・事務所・玄関等に、シールは名刺ハガキ・封筒に貼り付け、国有林のPRと営林署のイメージアップに役立てた。

ロ) 結果

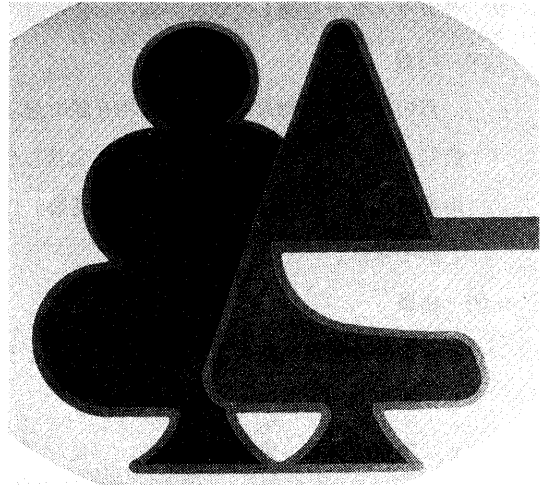
- a 職場に対する一層の愛着と強い絆ができた。
- b 地域から親しみの湧くマークだと好評を得た。
- c 国有林のPRと営林署のイメージアップに役立った。

イ 「下呂の植物を知ろまい会」運動の展開

イ) 内容

職員の職務意欲の向上とプロとしての自信・資質の向上を図ることを目的とし、現場の主任が中心となって植物標本を作成し営林署の玄関に掲示すると共に、植物観察会を現地において開き、積極的に植物を観察し全員で知識の習得に努めた。

ロ) 結果



このシンボルマークは、下呂営林署の頭文字『G』をデザイン化したもので、外周を水色にして清らかな流れと澄んだ空間をイメージしている。広葉樹は黄みどりに、針葉樹は濃いみどりにし、併せて『林』を表現したものである。また、この図柄は、下呂署が生産する優良ブランド林の「東濃ヒノキ」、小鳥や動物の住かを与える天然林、さわやかな自然の景観をも表現したものである。

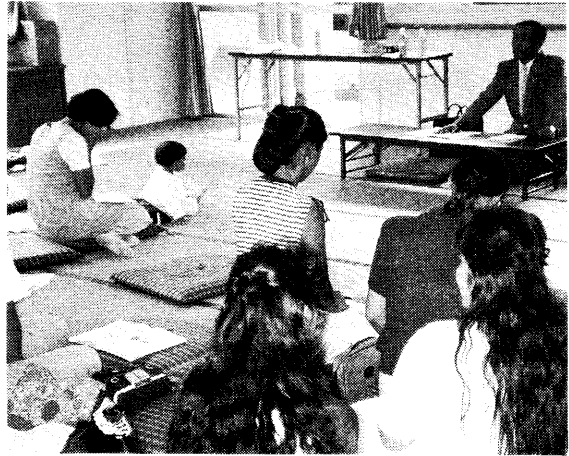
(イ) 結果

- a 森林に対する親しみが深まった。
- b 森林・林業への知識と重要性について理解が深まった。
- c 自己研鑽にもつながった。
- d インストラクター受託業務として始めての実績が残せた。
- e 営林署が再認識され高い評価を得た。

イ 幼児学級委員会の学習会へ講師派遣（写真－３）

(ア) 内容

この学習会は萩原町の若い主婦たちが環境問題について、日常生活の小さい行動にでも留意することにより、川や熱帯雨林等地球環境を守っていけるということで開催された学習会で、これに当署の総務課長が講師として招かれ「宇宙船地球号の環境問題と森林のはたらきについて」



学習会への講師派遣

をテーマに講話すると共に、併せて国有林のPRを行った。

(イ) 結果

- a 若い主婦に森林・林業への理解が深まった。
- b 国有林のPRができた。

ウ 桜の名称づくり

(ア) 内容

観光地下呂に相応した桜の名所づくりを提言し、下呂町と協力し阿多野谷公園外に150本の山桜を植えた。

(イ) 結果

- a 下呂町から地域に根づいたタイムリーな事業であると高い評価を得た。

エ 卒業記念行事への協力

(ア) 内容

下呂小学校六年生児童と父兄など200人が参加する卒業記念行事に、カキ・ミズナラ・クリ・トチノキの「実のなる木」を贈り、植え付けの指導や支柱・記念標柱の設置等に協

力した。

(イ) 結果

- a 父兄・学校関係者から大変感謝された。
- b 児童からは「成人式にこの木の下で再会しよう」等と夢のあるプランに大好評であった。

5. ま と め

(1) 職場では、

- ア 職員の資質の向上とプロとしての自信が高まった。
- イ 参画意識の高まりによる改善提案の増加。
- ウ 活力ある職場へと確実に変化している。

(2) 地域からは、

- ア マスコミにも取り上げられて広範囲の人達から「宮林署は良くやっている」と高い評価を得、今までより一層の深い理解と信頼関係が築かれつつある。

以上、私たちが活力ある職場づくりをめざして積極的に取り組んできた結果、職務意欲と、プロとしての自信・資質の向上が図られ、職場の様相も確実に変わりつつあることを実感している。

今後も各自が自己研鑽にはげみ、問題意識を持って、より活力ある職場づくりをめざし、更に努力していきたいと考えている。